

酪農学園大学

Vol. 137
新春号

健土
健民
王澤書

酪農学園の建学の精神

聖句

『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』
これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。
『隣人を自分のように愛しなさい。』

マタイによる福音書 22章37～39節

Green Stage ～酪農学園大学短期大学部閉校記念碑が同窓生会館前に建立される～

酪農学園
ずっと、つながっていく。

黒澤酉蔵翁の思想の原点と酪農学園

明治18年茨城県世矢村（現常陸太田市）の貧しい農家に生まれ、14歳で学業を志し、東京に出たが16歳のとき足尾鉍毒事件で田中正造を知り、その正義感と人間愛に感銘を受け、この出会いが酉蔵の一生を決定づけた。

田中正造は、人間にとって国土がいかに大切かを語り、「健土健民」を理想とする酉蔵の思想の根がつくられた。鉍毒で田畑を汚染され、健康を損なった農民救済のため、酉蔵は「青年行動隊」を結成したが、官憲から警戒され逮捕・投獄され6ヶ月間拘留の後無罪となった。しかし、この獄中での聖書との出会いが、その後の人生に大きな影響を与えた。

その1「健土健民」とは

「健やかな土地から生み出される健やかな食物によって、健やかな生命が育まれる」

この理念は本学の前進「北海道酪農義塾」から脈々と受け継がれてきた実学教育の核をなすものである。

その2「北海道に渡り、酪農の発展に尽くす

田中正造の援助により学業を修めていたが、母の死後貧しい弟妹を守るため、20歳で北海道に渡り、宇都宮牧場で宇都宮仙太郎から牛飼いは「役人に頭を下げなくてもよい」

「牛が相手だから嘘をつかなくてもよい」「牛乳は人々を健康にする」

という酪農3得を教わり、一生を酪農に捧げる決心をした。

明治42年に牛1頭を借りて念願の酪農自営を果たした。また、北海道畜牛研究会を結成し、生乳が余り危機に立たされた時には、酪農家自ら製品をつくって売る北海道製酪販売組合（現在の雪印メグミルク）を立ち上げた。

こうして北海道酪農のリーダーとなった酉蔵は、寒地農業に必要なのは酪農を軸とした「循環農法」でなければならないとの思いを強くした。

その3「循環農法」とは

地下資源には限りがある。しかし土の寿命は尽きることがない。その生命力を育てれば無尽蔵の資源となる。農業とは天地人の合作によって、人間の生命の糧を生み出す聖業である。

人と自然が共生し、物質やエネルギーが循環するシステムをつくる思想。

その4「農民教育のために」

人が育たなければ、酪農が育つわけがない。教育の必要性を実感した酉蔵は、昭和8年に酪農学園大学の前身である北海道酪農義塾を開校した。（その後の学園の沿革については、「ふみあと」p193を参照されたい）キリスト教の聖書からとった「三愛主義」を建学の精神として教育の根幹とした。

その5「三愛主義」とは

本学の人間教育は、神を愛し、人を愛し、土を愛す、「三愛主義」に基づく。

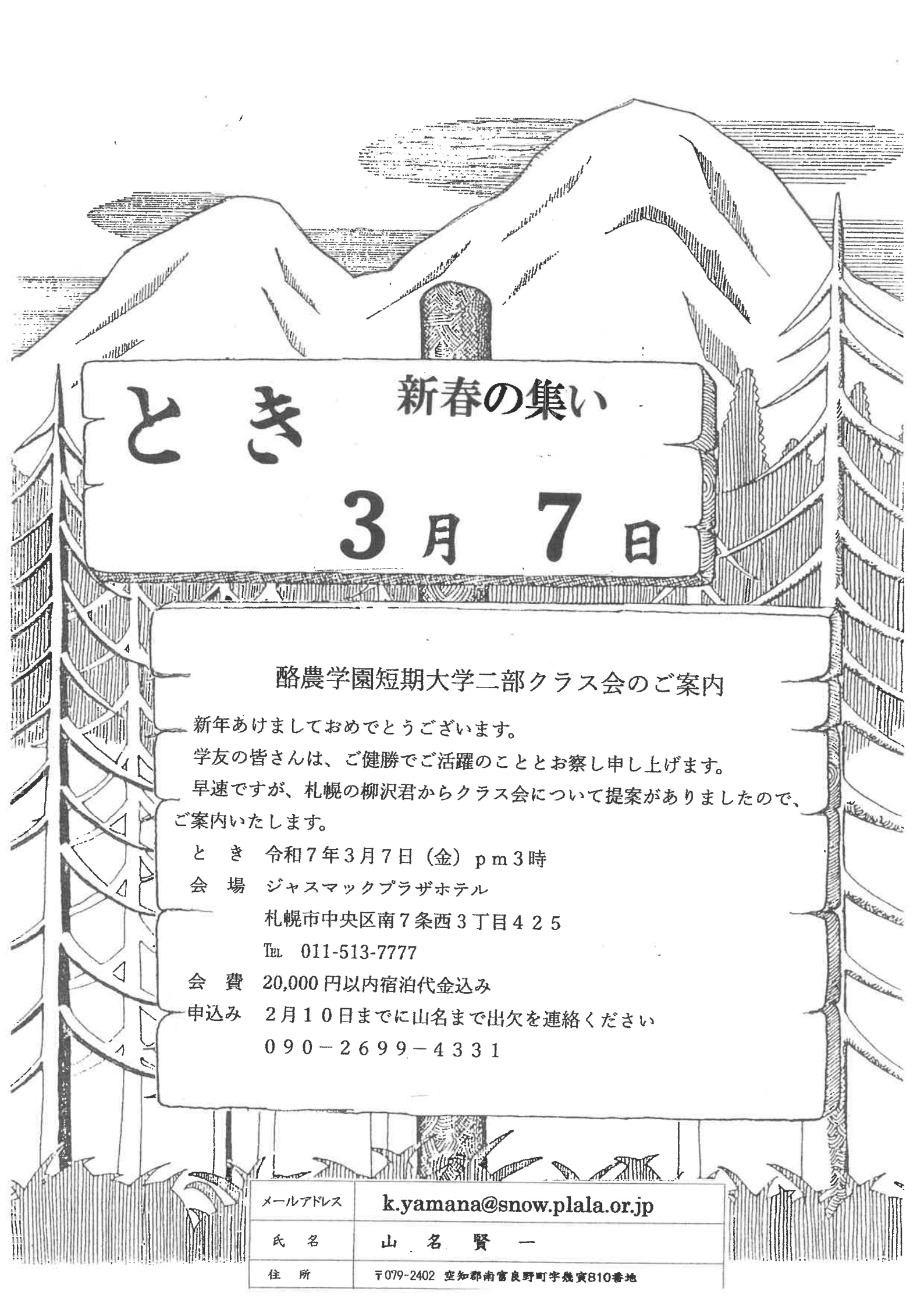
「神を愛し」とは善き人になろうと努力すること。

「人を愛し」とは互いの違いを受け入れて生かしあうこと。

「土を愛す」とは大地を健康に育てること。

この3つの愛が合わさって初めて、健やかな人と大地が生まれる。

参考文献 牛飼いからの伝言 黒澤酉蔵の生涯



とき

新春の集い

3月7日

酪農学園短期大学二部クラス会のご案内

新年あけましておめでとうございます。

学友の皆さんは、ご健勝でご活躍のこととお察し申し上げます。

早速ですが、札幌の柳沢君からクラス会について提案がありましたので、ご案内いたします。

と き 令和7年3月7日（金）pm3時

会 場 ジャスマックプラザホテル

札幌市中央区南7条西3丁目425

Tel 011-513-7777

会 費 20,000 円以内宿泊代金込み

申込み 2月10日までに山名まで出欠を連絡ください

090-2699-4331

メールアドレス

k.yamana@snow.plala.or.jp

氏 名

山 名 賢 一

住 所

〒079-2402 空知郡南富良野町字幾寅810番地